

2023年12月15日 社長会見（東京）要旨

【会見要旨】

本日お話しするテーマは、「カーボンニュートラルに向けた至近の取り組み」についてです。

【カーボンニュートラルに向けた至近の取り組み】

当社では、2050年の北海道におけるエネルギー全体のカーボンニュートラルの実現に向けて、国や自治体、さまざまな企業や大学などと連携しながら再生可能エネルギー電源の開発や、火力発電の脱炭素化、水素・アンモニアの利活用などに、グループを挙げて取り組んでおります。

本日は、至近の取り組みについていくつかご紹介いたします。

はじめに、再エネの開発について、お手元の資料2ページをご覧ください。

北海道は、海に囲まれ、広大な土地や恵まれた日照地域があるなど豊富な自然環境に恵まれており、再エネのポテンシャルが高い地域です。

当社は、これらの豊かなエネルギー資源を最大限活用すべく、再エネの開発を加速し、「2030年度までに30万kW以上増」という目標を達成するとともに、その後もさらなる積み増しを図ってまいります。

資料3～6ページには個別の取り組みについて紹介していますが、至近では、森バイナリー発電所が運転を開始したほか、北海道内各地で、地熱開発調査や風況調査などを行っております。また、苫小牧エリアにおいてバイオマス発電所の建設を進めており、2025年4月に運転開始予定です。

7ページでは、ほくでんネットワークによる再エネの導入拡大に向けた取り組みを紹介していますので、後ほどご覧ください。

次に、カーボンニュートラルの実現に大きく貢献する泊発電所の新規制基準適合性審査への対応状況について、8ページをご覧ください。

審査対応にあたって、効率的に審査を進めるために、「論点抽出の徹底」、「審査体制の補強」、「地震や津波などの自然ハザード分野のリソースの確保」、「コミュニケーションの充実」の4つをテーマとして改善を図ってまいりました。

具体的には、審査資料の質向上に向けて、論点抽出を徹底するほか、体制面では、人員数・力量の両面を補強し、また、自然ハザード分野に長けた人材確保のため、専門家の採用や社員の育成にも取り組んでおります。加えて、原子力部門トップと現場レベルで審査状況や課題解決に向けた検討状況を随時共有し、効率的な審査対応や、経営判断の迅速化に繋げております。

こうした取り組みを積み重ねたことで、至近では、主要な審査項目のひとつである基準地震動の検討について、原子力規制委員会から「概ね妥当」との評価を得ることができました。基準津波や火山など残る審査項目についても一定の進捗をみており、引き続き、精力的に対応を進め、また、安全対策工事も着実に実施してまいります。

今月下旬には、原子炉設置変更許可をいただくためのまとめに向けて、プラント側の審査において、これまで説明してきた内容を反映する原子炉設置変更許可申請書の補正を予定しております。

当社は、安全性の確保を大前提に、泊発電所を早期に再稼働し、カーボンニュートラルの実現に向けて、最大限活用していきたいと考えております。

次に、水素・アンモニアの利活用について、9ページをご覧ください。

今年5月に、苫小牧エリアで北海道内最大級の水素製造装置が運用を開始しております。今後、冬季を迎えるにあたり、寒冷地ならではの運用・保守の課題を抽出し、ノウハウの確立に取り組んでまいります。

10ページをご覧ください。水素・アンモニア社会の実現には、製造から輸送、利用に至るまでのサプライチェーン構築が不可欠です。当社では、現在、苫小牧エリアをモデルとして調査を進めております。

次に、火力の脱炭素化についてご説明します。

先ほど申し上げましたとおり、当社は、再エネと原子力を中心に電源の脱炭素化を進めているところですが、カーボンニュートラルの実現に向けては、再エネの変動性を補う調整力として火力発電は重要な役割を担うと考えております。

11ページをご覧ください。当社最大火力の苫東厚真発電所が立地する苫小牧エリアは、陸・海・空の交通アクセスに優れた広大な工業地域です。将来的に、この苫東厚真発電所の隣接地を拠点として火力発電の脱炭素化に向けた実証を進めていく考えです。先ほど申し上げた「水素・アンモニアサプライチェーンの構築」に関して、特に、アンモニアについては、ここを他産業への供給も含めた拠点として活用することを検討しております。

次に、お客さまの脱炭素化支援について、12ページをご覧ください。

当社は、道内企業の環境経営の取り組みをお手伝いするため、ご使用される電気のCO₂排出量をオフセットする電気料金メニュー・サービスを各種ご用意しております。

また、今年は北海道日本ハムファイターズの新球場の開業が大きな話題となりましたが、当社はESP事業として、省エネ・高効率機器の導入からエネルギー調達、設備の運用まで、一括したサービスを提供しております。省エネ・環境・BCPに配慮した球場の実現を通じて、北海道が世界に誇るボールパークであるエスコンフィールド北海道をサポートしてまいります。

次に、地域の皆さまとの取り組みについて 13 ページをご覧ください。

当社は、各自治体などと共同で、ブルーカーボン事業に向けた研究を行っております。国内の海藻生産量の約 7 割を占める北海道は、ブルーカーボンによる CO₂ 吸収・貯留ポテンシャルの高い地域であり、当社は、磯焼けなどの地域課題の解決に貢献しつつ、脱炭素に係る取り組みを進めていく考えです。

また、今年 6 月に連携協定を締結し、北海道大学キャンパスでエネルギーマネジメントシステムを活用した実証などを通じて、地域の脱炭素化に資するモデル構築に向けた取り組みを進めています。

引き続き、当社は、地域の課題克服や経済発展に向けて、共に新たな価値を創り上げる「共創」の考えのもと、自治体や大学・研究機関と連携した取り組みを展開してまいります。

最後になりますが、当社は、本日ご説明した取り組みはもとより、あらゆる手段を総動員して、カーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでまいります。

私からは以上です。